

ゆとろぎ立体駐車場の安全対策について

倉田まなぶ議員の9月議会一般質問



「ゆとろぎの立体駐車場から出てくる車が危険」との声を市民からいただきました。ここは、生涯学習センターゆとろぎ、羽村市図書館、富士見小学校が近接して、たいへん子どもが多い場所です。未然の事故防止のために早急な安全対策が必要であることから、9月議会の一般質問で取り上げました。

倉田 生涯学習センターゆとろぎ立体駐車場について

車両出入り口に、音や光で周囲に注意を報知する駐車場センサーシステムを導入してはどうか？

子どもの飛び出し注意を促すために、通行人やドライバー向けの標識板を設置してはどうか？

市長 一般に、駐車場の出入り口と歩道の接する部分は、通行人との接触事故等が発生しやすい場所となっており、安全管理において細心の注意を払わなくてはならないものと認識している。

駐車場センサーシステムについては、駐車場が住宅地の中に設けられており、出入り口の対面にはマンションがあることから、音や光が周辺住民の生活に影響を及ぼす恐れもあるため、現時点では設置していく考えはない。

標識板については、ドライバーからの視野が妨げられないよう、また、通行人からも見やすい位置となるよう配慮したうえで、効果的な注意喚起を検討していく。



ゆとろぎ立体駐車場1階(上)2階(下)出入口



2019年10月16日 発行 羽村民報編集委員会
No.1024 責任者 野崎 稔

日本共産党羽村市委員会は、以上の報道をおこないました。電話 579-2132

倉田コメント

市民の方から寄せられた要望をさっそくとりあげ、議会で質問しました。現場を確認すると、大ホール等を利用する事業の際には、誘導員が配置され、安全対策が図られています。しかし、普段から立体駐車場の利用率は高く、誘導員がいない状態では、子どもたちにとって大変危険です。周辺住民への配慮をしながら、きちんと安全対策が図られるよう要望を続けていきたいと思います。

平成22年度一般会計決算の認定に反対しました **日本共産党**

9月30日羽村市議会本会議で、鈴木たくや議員がおこなった平成22年度一般会計決算の認定に反対する討論をお伝えします。



「平成22年度は、長引く不況の中、市民の暮らし、営業がたいへんきびしい年度でした。市民税個人分は、市の予想を大きくうまわるマイナス3億5千万円、前年比マイナス9.5%となりました。市民税法人分は、前年比プラス4.9%となりましたが、4億7千8百万円。過去最高額が19億4千万円あったことと比べると、たいへん低い額にとどまりました。

こうした状況のもと、羽村市は、さまざまな対策を講じました。市税収納率の向上、市有地の売却、小作台駐車場の市営化、動物公園駐車場の有料化、人件費の削減、各種事業の見直し、などです。

さらに、臨時財政対策債を9億円発行しましたが、結果として、交付団体へ移行し<裏へ>



10月4日 市内の特養老人ホーム羽村園と、介護老人保健施設あかしの里に視察。介護病棟の段階的閉鎖で、求められるニーズが高度になりつつあること、入所待機者の課題、利用料の問題など、課題がよく分かった。厚生委員として真剣に取り組んでいきたい。(倉田)

10月5日 宣伝カーを走らせていると、ご婦人に呼び止められる。公園の清掃、在宅介護者への支援策、はむらんをもっと市民に利用してもらおうアイデアなど、さまざまな要望、提案をいただく。日々の暮らしの視点からの指摘。大変ありがたい。(鈴木)

普通交付税を3億2千5百万円うけとることとなりました。

こうした中、評価できる施策を市はおこなっています。私立保育園建て替え補助、栄第二学童クラブ整備、ヒブワクチン接種補助、プレミアム付き商品券第3弾などです。これらは、市民の要望に沿った施策だったと評価できます。また、物件費、委託料など経費削減もおこなわれました。市民への影響がないよう注意深く見ていくことが必要ですが、職員の努力があったと、これも評価できます。

しかし、一方で、さまざまな市民サービスの低下があったことも事実でした。

いこいの里、じゅらく苑での高齢者入浴サービスは、実施日を週のべ9日から6日に減らし、利用者は合計23,463人から17,243人へと、約3割減の結果となりました。

心身障害児通所訓練事業「青い鳥」は有料化され、38人分、56万6千円の負担が新たに生じました。

3ヶ所の市役所連絡所の時間短縮がなされ、取り扱い件数が、前年は18,628件だったものが、11,830件へと、前年比マイナス36%となりました。

小中学校副教材費補助金は、小学生1人160円、中学生1人210円の削減となりました。動物公園駐車場の有料化、国保税の平均6.5%の引き上げもなされました。

これらは、暮らしが大変厳しい市民に新たな負担をおしつけるものとなり、問題だったと考えます。

また、多くの市民が反対の声をあげつつけている羽村駅西口区画整理事業をすすめたことは、市政の最大の問題であったと考えます。

西口権利者の会補助金は15万円。事業について様々な意見がある中、推進する側の団体に補助金を支出することは適当ではありませんでした。

一般会計から、西口区画整理会計に3億3千万円を繰り出して、第二次換地案作成などの業務をおこないました。

第二次換地案反対の署名が372名、第二次換地案にたいする意見書が312名から提出されているなど、事業の見直し、中止をもとめる声ひきつづき大きくあげられています。こうした声に反して、多額の税金をつかって事業をすすめたことは、問題でした。

以上、全体として、評価できる施策はありましたが、適切でないお金のつかわれかたがあり、本決算の認定には賛成できません。

私たち、共産党市議団は、平成22年度予算には修正案を提案し、西口区画整理事業の予算を削り、福祉・教育費の削減をやめ、借金を減らすとの提案をおこないましたが、こうした方向で、市政をよりよいものにする決意をのべて、討論いたします。

今回の無料法律相談は11月8日(火)午後1時半からです。
電話でお申し込みください。

・鈴木 080-1058-9450 ・倉田 080-3460-0064まで。